

中国日本商会

みつま

三瀦先生の

「ナルホド中国、ナットク中国」



三瀦コラム 中国「津津有味」-16

「台北の繁華街で、“陳先生”“林小姐”と叫んだら、何人ぐらいが振り向くか試してごらんよ」とは、私が学生によく言う言葉。台湾にはそれほど陳さん林さんが多いのです。

中国人の姓は一体どれくらいあるのか、稀な姓も含めれば漢族だけで3000を超えると言われています。しかし、87%の漢民族は100前後の姓に属しており、北宋時代に編まれた『百家姓』には、一字姓・二字姓を含めた代表的な姓が含まれています。姓名用字は決まっているので、ご存知のように、辞典には説明項目に必ず「姓名用字」と明記されています。どんな姓が最も多いかは時代によって異なりますが、現代では李・王・張・劉などが上位を占めています。

日本はどうかと言えば、なんと12万個を超えとも。それというのも、日本人誰もが姓を持たなければならなくなったのは明治8年(1875年)のことで、それまで苗字帯刀は武士の特権だったわけですから、姓の「製造ラッシュ？」になったわけです。その当時だけで3万個以上出現しました。日本の場合、地形や自然に関する姓が多いのが特徴で、「田」や「川」「山」「原」などのついた姓は枚挙に暇ありません。

以前、新潟のある村で、村全部がほぼ同姓なので、ファーストネームで呼ばないと分からない、という事例がテレビで紹介されていましたが、中国でも、石家庄・李家庄などという地名があるように、同姓による村落の形成は珍しくありません。したがって、広い中国全体でも、姓の分布の地域的偏りは明らかに存在し、姓を聞けばどの地方の出身か見当がつく場合があります。

例えば、孔さんは圧倒的に山東省です。そう、孔子の子孫になります。顧さんは江蘇省、毛さんは湖南省、鄧さんは四川省、汪さんはほとんど江西省に集中していますし、蔡さんは台湾に集中しています。長い間には戦乱もあり、また、迫害を逃れるため改姓することもあり、南北朝時代や明代のように多くの異民族が流入して既存の漢族の姓を名乗ったりと、様々な要素があるわけですが、姓の分布は様々な側面から歴史の変遷を伝えてくれます。東北地方と山東省に共通点が多いのは、山東からの移民の多さを立証しています。

90年代初め、中国で“姓社姓資”論争が巻き起こりました。“姓”はよく動詞として使われます。“你姓什么？”(お名前は?)が良い例です。“姓社姓資”も同様で、「社会主義を姓とするのか、資本主義を姓とするのか」という論争でした。80年代末の騒動を受け、社会主義初級段階理論に対して、社会主義の本来の道に立ち返れ、という議論が起こり、党内を二分しましたが、1992年の鄧小平の南巡講話によってようやく論争に終止符が打たれ、改革開放政策は本格的な発展段階に突入しました。

“我不姓~”(私は~ではない)という表現は、時には(私は~を名乗らない)という意味にもなります。コンテキストにもよりますが、それはかなり毅然としたある種の意思表示になります。一大決心とも言えまじょうか。中国人にとって、姓とは社会生活においてそれほど大切なものであり、宗親譜(家系図)が温存されるゆえんでもあります。